

平成 29 年度第 1 回琴浦町地方創生推進会議（結果）

日時：平成 29 年 6 月 1 日（木）19：00～20：30

場所：本庁舎 防災会議室

1. 参加者	黒田委員、長谷川委員、林原委員、山崎委員、和田委員、光本委員、中西委員、高尾委員、眞山委員、松田委員、井上委員、中谷委員、山村委員、四門委員、大石委員、藤原委員、信組委員、御古委員、笠見コンシェルジュ、町長、副町長、事務局 3 人
2. 欠席者	柳沢委員、米原委員、佐伯知委員、平野委員、小野委員、佐伯健委員、安谷委員、
3. 内容	<p>1. 開 会 藤本課長（企画情報課）</p> <p>2. あいさつ 山下町長 委嘱状交付</p> <p>3. 委員自己紹介</p> <p>4. 会長、副会長選出 規程により会長は町長が指名、副会長は委員の互選 会 長：中西章人さん（町長から指名） 副会長：光本みゑ子さん、大石陽一郎さん （立候補なし、事務局一任の声により事務局より推薦）→承認</p> <p>5 地方創生の取組について</p> <p>①琴浦町地方創生推進会議の役割を説明（当日資料 1） これまでの経過、用語説明、位置づけ、任期、今後のスケジュール等説明。 役割：地方創生事業の PDCA サイクル実施機関として意見、評価、提案。 総合戦略策定の改訂案についての審議など。</p> <p>②琴浦町地方創生推進体制を説明 事前送付資料の図により説明。</p> <p>③琴浦町人口ビジョン、琴浦町まち、ひと、しごと創生総合戦略について 事前送付した資料（概要版）に基づき、人口の長期的ビジョンと、人口減少のスピードを緩やかにし、町の活性化を推進していくための総合戦略の概要を説明（4つのテーマ）。 委員さんからのご意見をいただく。</p> <p>④平成 28 年度の総合戦略関連事業の進捗状況について（当日資料 2） 事前配布資料は具体的資料。本日は当日資料 2 で説明。 担当課による 2 年目の自己評価。取り組みが順調である項目が 86.1%。 達成できなかった取り組みについては H29 年度に再検討する。 KPI 達成率、主な課題の説明。 委員さんからご意見をいただく。</p> <p>⑤地方創生加速化交付金・推進交付金事業の進捗状況について 事前配布資料は具体的資料。本日は当日資料 3 にて説明。 交付金事業の説明と、それぞれの事業の概要及び KPI の進捗状況。 観光客数と就農体験参加者数は中部地震による影響があった。 委員さんからご意見をいただく。</p>

4. 主な意見

推進委員からの主な意見は、次のとおり。

1. 琴浦町人口ビジョン、琴浦町まち、ひと、しごと創生総合戦略について

目標の将来の人口推移は右肩下がりになっているが V 字にしていく考え方はないのか。

→最終的には V 字を目標としていきたいが現実と乖離しすぎており、大きすぎる目標は達成しにくい。右肩下がりは全国的な問題であり、とりあえず 5 年間はカーブを緩やかに保つことを目標として、今後よい兆しがみえてきたら見直しも検討したい。

2. 平成 28 年度の総合戦略関連事業の進捗状況について

①当日資料 2 について担当課での評価は順調が 86%と高いが、裏面の進捗状況をみたら達成度が低い、このギャップは何か。

『実行した＝順調』ととらえていないか。評価はできているか。

→ 評価については毎年度実施。事業内容が様々で短期で結果がでるものや長期にわたるものもあり、担当課により温度差が出ていることは否めない、検証しながら 5 年後 10 年後に目標達成できるようにしていきたい。自己評価のばらつきも今後の課題にしていきます。

②当日資料 2 の『主な課題』が機能していけば、地方創生の推進力になる。今の体制でどのように推進していくのか、この課題に対して試行錯誤して考えていくことが地方創生のカギとなる。

→それぞれの担当課にいただいたご意見を伝えます。

具体的な取り組みとしては、ギンザケ養殖の事業は日本で最先端のシステムであり、観光面では道の駅琴の浦とポート赤碕が行き来できるような一体的な取り組みも考えています。

また、以西と古布庄の旧小学校や保育園の施設利用や、集落支援員の活用も考えています。

③道の駅『琴の浦』オープンでの新聞掲載において、琴浦町の 8 つのスポットが掲載され、赤碕 7 つ、東伯 1 つの掲載だった。どちらの発展も大切であるため、PR は公平にしてほしい。

東伯地区の観光の弱点は大山滝が 2 段から 1 段半になったことにある。

また、八橋海水浴場のにぎわいを取り戻すために、大山滝と八橋海水浴場の PR をしたら目標に近づくのではないか。

→写真については特別な意図はありません。合併をして 10 年以上経過し、職員も東伯・赤碕と区別することがなくなったが、多面的にものごとを見ていく必要がある。大山開山 1300 年によって登山ルートなどいろいろな事業が広域的に展開されるので、それに期待したい。県下の海水浴場が閉鎖に追い込まれる中、八橋は貴重な海水浴場となる。各団体と連携して賑わい創出に力を注ぎたい。斎尾廃寺から八橋往来、赤碕沿岸に至るまで、広いエリアで連携して観光振興を描いていくことが重要と認識している。

④出生率が低迷しているが、出産、育児、介護に直面しても安心して働ける多様な職場づくりを進めていただきたい。(育児＝イクボス、介護＝ケアボス)

男女共同参画の視点でのまちづくりをしていかないといけない。介護の視点も取り入れる等、検討いただきたい。

→男女共同参画、イクボス、ケアボス育成は重要な視点であり、行政としてしっかり受け止め、今後考えていきます。

3・地方創生加速化交付金・推進交付金事業の進捗状況について

① 生薬栽培研究の『生薬』とはどんなものか。

→ホーリーバジル、キヌア、ハシヨウマメなど、イメージとしては薬草。

②健康寿命日本一！で健康寿命の延伸の31年度目標値があるが、この数値を達成すれば健康寿命日本一となるのか。

→『日本一』はスローガンのものと認識していただきたい。目標達成＝日本一ではありません。最終的には日本一を目指す、とりあえず31年度までは今の健康寿命より1歳延伸を目指すものです。

③農林水産業への新規就業者数について

北栄町では倉吉農高進学率が高く、スイカ栽培で活性化している。要因として、農業による女性の活躍がある。ぜひ本町も力を入れてほしい。

→ぜひ、今後の参考にします。

④健康カルテの改善で実績が0であるが、どのようなものか。

→カルテの詳細について把握はしていないが、町に対して各事業所が求めているものと町の考えとのミスマッチがあったため、再度検討します。

⑤交付金は国から出るものか。目標値の設定が必要か。目標達成に至らなかった場合の返還はあるか。

→交付金は国から出る。目標値も必要。返還は必要ない。

⑥観光客数の伸び悩みが中部地震の影響となっているが、事業内容についての問題はないか追求してほしい。

また、観光客も大事だが、今いる人も大事にしてほしい。

→確かに地震だけではないと思います。それぞれ反省点も出てきていると思うので、そこを分析し、改善していきたい。

『暮らしている人の幸せ』という視点は以前の審議会にも出ており、地方創生を進めていくうえでも重要と考えております。

→地方創生交付金はそもそも既存事業にはないチャレンジ精神があり、ハードルの高い事業について国が選別し決定する仕組み。

そのため観光客数についても高いハードルを設定しており、そこを目標としているため目標達成に程遠いところもあると思いますが、ご理解いただきたい。地震の影響で目標達成できなかったと誤解を与えたことにつきましては、確かに説明不足な点があり、申し訳ありません。

→本質的なところをついた大変貴重なご意見をいただきありがとうございました。

この地方創生の根底には、人口減少に歯止めをかけることはできないかもしれないが、みんなで一緒になって元気なまちをつくっていこうという思いがあります。『暮らしている人の幸せ』は基本中の基本と認識しております。

農業についても、隣の町に負けないような施策を打ち出していくことが大切だと思います。

PDCA サイクルもまだまだ不十分であり、組織全体としても地方創生に取り組む姿勢に温度差があるのは事実です。
繰り返しますが『みんなで一緒になって元気なまちをつくっていこう』ということがなにより重要と考えます。

中西会長

事前送付された資料も多いため、今後質問等がありましたら個別に質問等をしていただけたらと思います。

その他

(事務局から今後のスケジュール説明)

H29 年度に 4 回程度開催予定

- ・ 総合戦略改訂（案）についての説明・ご意見
- ・ 上半期実施状況報告
- ・ H29 進捗状況報告

閉会 あいさつ 副町長

長時間ありがとうございました。

この会は全般的に情報量が多く、情報共有できない。

次回からは改訂の方向性を示し、それを審議していただくように検討したい。

5 年先のことをどうするかと関心を示していただく場がこの場であり、次回からはその観点でご意見をいただければと思います。ありがとうございました。